

志高錬成

～志を高く持ち、
よりよい成果を得るために、
粘り強く自分を鍛える～



令和8年7月17日 8号

佐久市立浅科中学校 文責：中島

『腐ったみかんの方程式』という言葉。知っている方はいるでしょうか…？

1学期も残りの日数が少なくなってきました。昨年までは学期末に通知表が渡され、色々な感想を持ちながら夏休みに入る…なんてのが「いつものパターン」だと思います。今年は通知表がありません。しかし、生徒の皆さんには1学期の「学び」があったはずで、みなさんにとって、1学期の「学び」を振り返って見たとき、どんな感想があるのでしょうか？「頑張れた」「最初はイマイチだったけど、最近ではできるようになった」なんて感想が出てくると良いのですが、みなさんの中にはそういう感想を持てる人だけではないでしょう。「できなかった」「頑張れなかった」と思うことは間違っていないと思います。大事なことは「この先どうするのか？」です。格好良い言葉で言えば「過去は変えられないけれど、未来は変えられる」のです。だから、みなさんには「今」や「これから」を大切にしたいと思っています。「今」頑張れなのに「これから」頑張れる訳がないのです。大事なものは「今」であり「これから」です。そのために、今までの自分について、言い換えれば1学期の自分についてしっかり振り返って見てほしいと思います。

さて、今回の志向錬成ですが、タイトルに「腐ったみかんの方程式」という言葉があります。みなさんのなかに、この言葉の意味を知っている人はおそらくいないと思います。もしかすると、みなさんのお父さんお母さんは知っているかもしれません。今日家に帰って、聞いてみてもいいですね。「そんな話はいいいから、『腐ったみかんの方程式』って何？」と思っている人がいると思いますので、この言葉の意味(エピソード?)について説明をしておきましょう。

この言葉は、昔やっていたテレビドラマに出てきたセリフの1つです。そのドラマは、ある中学校を舞台に、ある先生が活躍するものです。数年前にも特番をやっていましたし、いくつかのシリーズになっていたのも、ドラマ自体はかなり有名だと思います。ドラマのタイトルを聞けば「あ～、知ってる…」という人もいられるでしょう。ドラマの舞台になった中学校(ドラマですので、実在の中学校ではありません)では、いろいろな問題が起こります。校内暴力、いじめ、薬物…本当に様々な問題が起こりますが、今回のタイトルである「腐ったみかんの方程式」という言葉が登場したのは、クラスや学校で「校内暴力」が起こっていた頃の話です。「校内暴力」と言ってもピンと来ない人もいられるでしょう。まあ、簡単に言えば生徒のなかに先生の言うことを聞かず、自分の好き勝手なことをしていた人がいて、それを注意する先生に対しその生徒は暴言を吐いたり暴力を振るうのです。今の浅科中学校では考えられませんが、そう言うことが実際に起こっていた中学校もあったのです。

ドラマのなかの中学校には、教師に反抗する生徒達がいて、先生達は、その生徒たちに悩まされていました。先生の言うことを聞かず、授業にはなりませんし、他の生徒たちも落ち着いた生活ができません。「あの生徒さえいなければ…」先生達のなかには、こう思う人も出てきました。つまり、あの生徒がいなければ、落ち着いた学校生活を送ることができるし、問題はなくなる。それを「腐ったみかん」に例えたのです。段ボールにみかんがたくさん入っていたとしましょう。その中の1つでも腐っていると、周りのみかんも腐ってしまいますよね。たった1つの「腐ったみかん＝言うことを聞かない生徒」が「周りのみかん＝周りの生徒」を「腐らせてしまう＝ダメにしてしまう」そういう意味から「腐ったみかんの方程式」という言葉が出てきたのです。この言葉に対して、ドラマの主人公である先生は猛烈に抗議します。「腐ったみかんとはどういうことか！！。特定の生徒に責任を押しつけても、何の解決にもならない！！」その先生はこう訴えたのでした。結局、そのドラマでは反抗した生徒達が自分達の行動を反省し、新しいスタートを切っていく(ここまで行くのに、いろいろなトラブルがあるのですが)という形で終わります。私は「いろいろあったけれど、最後はまとまって良かった(×2)…」と、その時は思いました。

「今回の『以心伝心』は、そのドラマの紹介で終わり？」と思っているそこのあなた！。そんなことはありません(笑)。

大事な話はこれからです。私は、特定の者を「悪者」にする考え方に賛成しません。つまり、「腐ったみかん」なんて言葉自体がそもそも間違っていると思っています。しかし、一方でこう考えます。「もし、真面目にやっている人が、不真面目にやっている人のために損をする事はおかしいよな…」って。授業や学級活動など、「集団」で活動をする場合、その活動が良くできたかどうかは「集団」で評価されることがあります。例えば、クラス合唱である歌を歌ったとしましょう。その時に自分は一生懸命歌った。でも、周りの人が適当にやっていた。そして「〇組の合唱は、あまり良くありませんね」と言われた…。もし、みなさんが「一生懸命歌っていた人」だったらどう思うでしょうか？。「もう一度頑張ろう！！」って前向きに考えられる人はいいですが「自分がしっかり歌ったって、他の人が適当にやっているんだから、一生懸命やってもバカみたいじゃん…」って思う人の方が多いでしょう。こうなると、活動を真剣に取り組む人(姿勢)が少なくなり、何事も「適当」に済ますようになります。次に、本当はそう思っていないくても「まあ、このくらいでいいじゃん」とか「自分だけ真面目にやっても無駄でしょ。みんなちゃんとやらないんだから…」という発言や気持ちがクラスに広がります。こうなるとクラスでの活動に「力」がなくなっていくます。私は、これを個人的に「クラス(学校)『力』が無くなった」と言いますが、上に載せたような言葉が出てきた時点で、そのクラスに「協力」とか「助け合い」とか「支え合い」といった気持ちはありません。そんなクラスが、果たして「居心地のいい、楽しいクラス」でしょうか？。今、浅科中がそういう状態だと言っている訳ではありません。しかし「クラス(学校)『力』」を失った「居心地の悪いクラス(学校)」になる可能性はあります。そして、浅科中がどのようなクラスになるかは、生徒のみなさん一人ひとりの「姿」にかかっているのです。

「トマトとメロン」

トマトにねえ いくら肥料をやったてさ メロンにはならねんだなあ
トマトとね メロンとね いくら比べたって しょうがねえんだなあ
トマトより メロンのほうが高級だ なんて思っているのは 人間だけだね
それもね 欲のふかい人間だけだな
トマトもね メロンもね 当事者同士は比べも競争もしてねんだなあ
トマトはトマトのいのちを メロンはメロンのいのちを
いのちいっぱい 生きてるだけ
トマトもメロンも それぞれに 自分のいのちを 百点満点に生きているんだよ
トマトとメロンをね 二つ並べて比べたり 競争させたりしているのは
そろばん片手の人間だけ 当事者にしてみれば いいめいわくのこと
「メロンになれ メロンになれ かわいいメロンになれ！！
金のいっぱいできる メロンになれ！！」と尻をひっぱたかれて ノイローゼに
なったり やけのやんぱちで 暴れたりしているトマトが いっぱいるんじゃないかなあ

相田みつを著 「にんげんだもの」より抜粋

上に載せた相田さんの言葉から、みなさんはどんな感想を持ったでしょうか？。大事ななのは、自分に与えられた仕事を「手を抜かず、一生懸命やること」だと思います。そういう人がクラスや学校にいれば、浅科中の「学校『力』」は決して下がらない。一人ひとりの行いが、浅科中の「中身」を決めることを是非覚えておいて欲しいと思っています。真面目にやっている人が救われる学校にするために必要なこと。それはみなさん一人ひとりの「姿」が決めるのです。そして、それが学校の「絆」を深めてくれると思います。今回は「学校の力」について考えてみました。お家の方や地域の方から「浅科中はまとまっていますね」と言われるよう、1人ひとりが頑張れる「集団」でありたいですね…。

